

社会共創学部プロジェクト基礎・実践・応用演習概要（2019年度実績）

産業マネジメント学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
女性が管理職になろうと意欲をもてる組織とは？-男女間の「競争」に関する選好の差異がキャリア意識に与える影響-	愛媛県若年者就職支援センター (ジョブカフェ愛work)	曾我 亘由	学生と社会人のキャリア意識に関する調査を実施し理想の働き方、管理職に対する意識、結婚・出産に伴うキャリア意識の変化等について、男女の差異、学生と社会人の差異を明らかにする。また、管理職に対する意識と職場風土や制度・手当との関連を調査し、管理職に意欲的な人の職場環境、管理職に意欲的な人が利用する制度・手当について明らかにする。さらに、「競争」意識がキャリア意識に与える影響をコンジョイント分析を用いて定量的に把握し、女性が管理職になろうと意欲を持てる組織について議論する。
若者の就業と地域活性化	IRC	廣垣 光紀	大都市圏への労働力人口の流出は、愛媛県が抱える大きな問題の一つである。このプロジェクトでは、愛媛県における若者の就業の実態とそれが地域活性化に及ぼす影響について研究調査を行い、地域活性化の方策を探る。
地方における越境ECの可能性	松山商工会議所	岡本 隆	消費者向け電子商取引（B to C - EC）は一般的な購買チャネル、販売チャネルになっているが、B to C - ECを用いて海外と取引する「越境EC」も広まりつつある。地方における越境ECの可能性を探るとともに、松山市において越境ECに取り組む事業者さんの協力を得て、米国amazonでの販売促進のためのサイトの構成やコンテンツを提案した。その過程でクチコミの統計的分析にも取り組んだ。
職務パフォーマンス向上に繋がる多側面ワークモチベーションの解明	NBC	園田 雅江	ほぼ画一的にハード面を変える『働き方改革』に、個別にソフト面としての働き方を最適化していくための策を付与することで各人の職務パフォーマンスがより向上するような働き方を実現させるために、ワークモチベーションがいかにして向上するのかを明らかにする。
ブロックチェーンの地域における適応可能性	愛媛NBC、明治大学	折戸 洋子	ブロックチェーン技術に関する意識や期待、課題等について、日本人や中国（中国語の質問票を作成）の大学生を主な対象に、東京都などの都市部と愛媛県などの地方においてアンケート調査を実施した。また、東京および愛媛で金融やIT、教育、建築、サービス、行政などの様々な業界の社会人やブロックチェーンのエンジニアに対してインタビュー調査を行った。得られた回答結果を主に性別や地域別で比較し、ブロックチェーンへの理解度や適用可能性の高い分野、導入の課題等を分析し、地域活性化にブロックチェーンを有効活用するためにはどうするべきかを考察している。
JR四国との連携した旅行企画のための調査研究	JR四国	西村 勝志	JR四国との連携事業でのプロジェクトは、JR旅行企画の策定・実施を行う。地域に埋没した資源を掘り起こし、地域活性化に繋げることを狙いとしている。学生自らが主体的に行動し、地域ステークホルダーとの協働のなか、目的に向かって邁進するものである。
松山市中心部に向けた新しい共同配送システム（CSDモデル）の提案	愛媛ニュービジネス協議会	徐 祝旗	宅配荷物の増加やドライバー不足で物流企業が積載率の向上や物流の効率化をはかる必要があります。本プロジェクトは大学周辺地域を対象に、従来の各社配送を取りやめ、対象地域の共同配送システムを提案します。まずは、対象地域の宅配荷物の特徴（量、指定時間帯、在宅率等）を学生アンケート、企業へのインタビューを通して定量的に把握します。次に、得られたデータをベースにシミュレーションを行い、共同配送の積載率、所要時間、トラック台数を算出し、提案モデルの有効性を検証します。
近郊・多自然地域における持続的社会に向けた政策研究	西条市役所自治政策研究所	山口 由等	人口減少対策のための施策を探るため、西条市の現状と課題の分析、移住促進のターゲットとして想定する松山市在住の子育て世代へのアンケート調査、および先進地事例調査（熊本県荒尾・玉井地区、福岡県糸島市、北九州市）を行い、結婚支援事業および移住促進事業の検討・提言の具体化を検討した。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
RDF（ごみ固形燃料）のこれまでと今後について	なし	岡本 直之	RDF（ごみ固形燃料）は夢のごみ処理方法ともされる。例えば大分県津久見市のドリームフューエルセンターでは、燃えるごみを固形燃料に加工し、セメント工場に販売し、セメント工場ではその焼却灰をもセメント原料として利用している。まさにドリーム・フューエルと呼べるRDFだが、RDF化施設は増えず、むしろ新規の建設はすぐに減少した。このプロジェクトでは、なぜこのような状況になったのか、原因を探り、今後の方向性を模索した。
JR四国と連携した旅行商品の企画	四国旅客鉄道株式会社	谷本 貴之	西村勝志ゼミと合同で四国旅客鉄道株式会社と連携した旅行商品の企画に取り組んだ。具体的には、両ゼミ生混合3名1組で編成された4つのチームが、愛媛県の各地域にそれぞれ対象を決めて、下調べをしたうえで現地を訪れ、地元の人たちに話を聴いたりさまざまな地域資源の見学や体験を行ったりしながら、地域振興を見据えた魅力的な旅行プランづくりに挑戦した。
必見！理想の人材像	愛媛NBC	川口 和仁	本研究は、企業、大学、学生が発信している人材に関わる情報を分析し、理想とする人材像に齟齬が生じる原因を明らかにし、解決策について考察する。最終的には、AI技術を用いて3者が共通して理想とできる業界別人材像の構築を目的とする。企業の求める人材像を企業が発信するメッセージを用いて分析する研究は過去にも行われているが、本研究では研究対象に学生と大学も加え、人材の育成・採用に関わる3者の情報を比較分析することで、就職採用活動におけるミスマッチ回避の一助となることを目指す。

産業イノベーション学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
愛南町内海の漁業の歴史と課題	なし	若林 良和	愛南町水産史の構築のため、愛南町中浦地区の水産業を対象に生活文化の観点から、地区の過去と現在の町並みの変化、地域漁業における漁業展開を文献やインタビューなどの調査を行った。その結果、かつての中浦地区は、イワンの旋網漁が盛んで街も賑わっており、地区の中で暮らしては完結していた。しかし、漁業の変遷に伴い海洋環境が変化し、産業衰退に繋がった事が分かった為、私たちにに解決案を提案した。
昭和30～40年代におけるカツオ漁業の操業実態－愛南町深浦地区の事例	なし	若林 良和	愛南町深浦地区で栄えていたカツオ漁について、文献や深浦出身の漁業者であるM氏の生活史をもとに、昭和30-40年代の漁の実態と漁船等の調査を行った。当時は船員の人数、水揚げ量共に多かった。現在は技術発達したが、船員数の減少と海外の水揚げ量が増加し、日本近海へ北上する量が減ったため水揚げ量は低下した。日本のカツオ漁は衰退しており、各国にカツオの漁獲規制を設け、資源量の回復に合わせた人材確保が望まれる。
付箋紙の作製	なし	深堀 秀史	これまでに学習した内容を活用かつ応用して既存の紙製品である付箋紙を作製した。目標となる付箋紙を様々な方法や観点から分析・評価し、それを基にして付箋紙に必要な特性を設定し、必要な材料や工程を調べ紙の作製を行った。薬品の使用や紙表面にデンプンを塗工することで必要な特性を紙に付与し筆記特性を向上させた。作製した付箋紙には、引張強度を除いて目標とした付箋紙と同等程度の特性を持たせることができた。
しっとり感って何だろう？	なし	深堀 秀史	「しっとり感」という感覚的な表現の正体について調査を行った。今回は、ティシューペーパーに焦点を絞り、【しっとり感の数値化】と、【ティシューペーパーに配合されるグリセリンという成分としっとり感の関係の明確化】を試みた。調査を進める中で、アンケート結果より、人の感じるしっとり感は、触り方によって変化することが判明し、さらに研究を進めていくと、【柔らかさが人の感じるしっとり感をより増幅させている可能性がある】ことが分かった。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
縁の下の力持ち！剥離紙の作製	なし	深堀 秀史	学んできた知識の応用・実践が目的であり、既製品と同等性能の紙を作製することで達成できるとした。以上より、ある剥離紙の剥離力と強度を再現することを目標とし、紙の作製に取り組んだ。剥離紙の特性を調査して工程を決定し、原紙には叩解による繊維間結合の増加と抄紙後のカレンダーによる高密度・平滑化を図った。剥離層には重剥離シリコンを塗工した。試験を行い既製品と比較した結果、各工程の効果は発現し、近い性能を再現できたと結論付けた。
ものづくりって凄い！～トイレットペーパーの芯から学んだこと～	なし	深堀 秀史	トイレットペーパーの芯の作製を行った。初めに、「芯の強度は、紙の厚さと引張強度に関係しているのではないかと仮説を立てた。この事を実証するため、叩解度とプレス圧の異なる紙を抄紙し、圧縮試験と引張試験を行ったところ、仮説通り、相互に関係していると分かった。普段何気なく捨ててしまう芯でさえも、様々な要因が関係しており、ものづくりが如何に大変であるかを学んだ。
VR自転車をを用いた愛媛観光産業の活性化	なし	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	ものづくりを通して地域活性化に貢献したいという思いがあった。主にUnityを用いてVRを作ろうと考えた。自転車とVRの連動にはArduinoを用いてロータリーエンコーダが自転車のタイヤの回転数を判別し、映像の進むスピードを制御する。しかし、作るだけではなく愛媛の観光地を撮影し、都市の空港などにVR自転車を設置することで観光客の人数がどれだけ変わるのかということまで検証し本当に効果があったのかを研究していく。
肥育牛の見守りシステムの開発	(有)ゆうぼく	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	ステークホルダーであるゆうぼくさんの牧場で、肥育してる子牛の死亡率が目立っていた。そこで、24時間子牛の管理ができるようにカメラで子牛の体調が分かる見守りシステムの開発に取り組んだ。システム開発には現在物体認識のシステムとして利用されているYOLOv3というものを利用した。オリジナルの学習データを作成しシステムに学習させることで子牛を判断できるようになるので3000枚の画像を用いて学習を行った。
柑橘収穫の自動化に向けて	なし	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	愛媛県の柑橘の農業従事者と生産量は年々減少している現状にあり、その背景には、肉体的な労働や人手不足が挙げられる。その課題を解決するために私は最も肉体的に負荷がかかり、人手が必要である収穫作業の自動化を目標に研究を行った。内容はopencvを用いて機械学習を行い、カメラの映像から検出を行うものである。結果、柑橘を検出することに成功した。今後、柑橘をつかむという行為を共同研究で進め、実用化へ進めていきたい。
障がい者施設との共同製作	社会福祉法人 駒鹿・アイセルブ	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	障がい者施設の活動として木工製品などの製作や販売が行われているが、競合や作業における課題が存在する。これらを解決するため、施設と相談し木工キューブパズルを新製品として考案した。実際に試作を重ね、形状や色などニーズに合わせた工夫や役割分担のための工夫を取り入れている。また現場の意見から削り作業の補助具を開発中である。今後は補助具の改良や種類拡充を行い、より一層のサポートの実現を目指す。
海藻類養殖の課題を解決	愛南町海洋資源開発センター	高橋 学 八木 秀次 山本 清水	愛媛県南宇和郡愛南町で行われている「ひじき養殖」の現場課題に興味を持ち研究を行った。課題は養殖中のひじきへの付着生物の被害を減少させるため、ロープを海面に保持し（時に浮上する）システムの開発である。ビジネス的な要素も考えながら予算を定め、また現場負担とならないよう自動化を念頭に、模型の作成を行った。今後は設置方法や電力供給についても調査を深め、早期のシステム実現が求められていると考えている。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
肥育データ管理アプリの開発	(有)ゆうぼく	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	愛媛の牧場をもつ企業と関わりがあり、牛の肥育情報を管理するアプリを開発してほしいという依頼があり開発を行った。アプリを使うことで蓄積した肥育情報を有効活用することが可能となり、作業時間の短縮などの利点が考えられる。主にサイボウズ株式会社の「kintone」というクラウドデータベースを活用している。今後使用できるインターフェースを増やせばさらに作業時間短縮が考えられる。
水流制御による養殖魚の共食い防止策	南予水産研究センター	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	南予水産研究センターではアオリイカを養殖しており、生餌の代替品として人口餌を与えているが、食いつきが悪く、共食いや餓死が発生するケースがある。それを防止するために、水流ポンプを用い、水流制御によって人口餌を生餌のように泳がせることにより、餌への食いつきをよくしようとしている。今回はSOLIDWORKS 2019で水流ポンプと水槽の模型を作り、flow simulationで水流解析を行い、最適な水流を模索することにより実用に向けた製品を目指す。
高齢者出入り確認システム	伊予市保健センター	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	認知症高齢者が徘徊で外出すると捜索が介護者にとって大きな負担となる。その課題を解決するために「歩行者が高齢者かどうかをプライバシーに配慮して判別するシステム」を目標に研究を行った。画像から人間の骨格を検出するアルゴリズムを使用して歩行者の姿勢とその関節座標をとりグラフ化した。今後は歩行姿勢のどこに高齢者の特徴が出るか調べる予定である。
農作物における害獣対策	なし	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	プロジェクト演習のテーマは農作物における害獣対策である。愛媛のみならず、全国で害獣がもたらす農作物の被害は大きい。そこで、害獣の撃退方法を強化するのではなく、捕獲に目を向け、取り組んだ。現在はセンサーが用いられ、概ね自動化が進んでいるが、完全な自動化は行われていない。そこで私が考えた、自動化を実現するシステムは重量センサーと距離センサーを組み合わせた装置である。
IoT・自動化を用いた新規就農者獲得と支援	Next Commons Lab西条 西条市新規就農者	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	様々な品種の農作物を生産するために、たくさんの異なる圃場で作業を行う農業には、PDCAサイクルを上手く回しにくいという問題がある。そこで、多品種の農作物を生産する就農者（特に新規就農者）を対象に、写真などを上手く用いて作業時間・内容をデータ化し、人件費の算出をIoTのアプローチから行い、作業の効率化・省力化を目的としたアプリケーションの開発と活用を目指す。
投球傷害予防のためのスローイングセンサー	なし	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	成長期の野球少年には投げすぎにより肩、肘の障害を高頻度で発症するという問題がある。投げ過ぎを防ぐため投球数計測器で一日の投球数を管理することで、肩、肘の障害を防ぐことができるのではないかと考えた。作成したい球数計測器は、加速度センサーを使用して投球時の加速度の特徴を感知し、その他の動作と判別して投球回数をカウントすることのできる装置だ。動作の判別を行うために様々な動作のデータを集める必要がある。

環境デザイン学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
西別川流域型観光～自然環境と一次産業と教育とを組み合わせた新たな観光の形～	虹別コロカミイの会（北海道標茶町）	佐藤 哲	摩周湖を水源とし、肥沃な農地が広がる根釧台地を流れ下って根室湾に注ぐ、全長70kmほどの西別川流域において、シマフクロウの生息環境の保全と持続可能な酪農・漁業の発展を目指して多様な活動を行っている虹別コロカミイの会と協働して、自然環境の魅力と一次産業の体験プログラムに、地域の人々による環境保全と自然再生活動への参加経験がもたらす魅力を組み合わせ、新しい地域主導型観光のあり方を探究した。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
四国西予ジオパークにおけるツーリズムの現状と課題	愛媛県西予市役所総務企画部まちづくり推進課ジオパーク推進室	榊原 正幸	四国西予ジオパークにおけるジオサイトが外国人観光客に観光資源としてどのような潜在価値があるのか、また、それらを有効に活用するための課題等を調べるため、外国人留学生の協力を得てジオツアーを実施するための事前視察および、地元自治体や住民との協議を行った。魅力的なジオツアーを計画し、留学生およびその家族を伴ってツアーを実践し、今後の改善点などを検討した。
八幡浜市の街なか活性化プロジェクト	八幡浜市役所、 八幡浜商工会議所、 八幡浜新食文化研究会、 愛媛県、内閣府	片岡 由香	八幡浜市の街なか活性化策として、商店街周辺の飲食店に着目し、地元店舗や商工会議所との協働によって、ひとりで店舗の味が楽しめる「ピンチョス」という料理形式で店舗を回遊してもらうイベントを企画し実践した。また、イベント当日には、普段ほとんど使われていない商店街の空きスペースを活用して子育て世代を対象とした空間プロデュースを行い、空間活用の提案を行った。また、本プロジェクト実施前の各ステークホルダーへの事前調査では、愛媛県および内閣府と連携しながら「提案募集方式」に絡む地域課題の探索も実施した。
西予市城川町を対象としたLearning Journeyの企画提案	西予市城川町、 (株)リレイション	羽鳥 剛史	西予市城川町高川地区を訪問し、地域資源の調査や地元住民との交流を図りながら、若者が地域の暮らし方を学ぶ地域滞在型研修ツアーの企画を提案した。自分達自身で企画を実践し、どのような学びが得られたかを検討した。
防火樹木整備による地域の難燃化計画の評価	松山市公園緑地課	二神 透	樹木の防火効果に関する研究が従来より行われており、火災に対する耐輻射熱、耐化力がモデル化されている。一方、松山市公園緑地課も、植樹や生垣整備の補助金制度を導入している。しかし、住民からの申請件数は毎年減少しており、樹木整備の効果を、防火性能向上といった視点で評価することが重要だと考えている。そこで、既存の樹木や植樹、生垣の設置などの防火効果をシミュレーターを用いて定量的に評価した。
宇和島市立遊子小学校におけるクロスロード防災劇の実践と評価	宇和島市立遊子小学校	松村 暢彦	宇和島市立遊子小学校6年生の防災教育において、児童が自ら考えて行動できることを重視することを目的として、クロスロードを用いた防災劇を小学生、担任の信藤教諭とともに開発した。知識・技能、思考力、判断力等の観点から評価したところ、いずれの項目においても学習効果が確認された。また、学習成果発表会での発表等を通して、児童が防災の話題をきっかけとして家庭内のコミュニケーションが増える効果があることも明らかになった。

地域資源マネジメント学科農山漁村マネジメントコース

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
小規模多機能自治の形成	久万高原町、柳井川地区地域運営協議会、同地区住民、集落支援員、移住定住支援員	笠松 浩樹	地域の課題を地域の自主運営組織で解決していく取り組みとして地域運営協議会が設立されているが、ここでは久万高原町の柳井川地区での活動に学生が参画して、その成果を取りまとめた。学生メンバーは、同地区で実施されたワークショップに参加するなどし、地域の現状を整理し意見交換をした上で、良質な水資源を生かした食品・飲料の提供可能性など検討した。
アスレチックを通じた森林資源の活用	林地所有者、小学校・小学生	小田 清隆	内子町立川地区の放置林の提供を受けて、子供から大人まで利用できるネイチャー・アスレチックランドが整備されている。今回、小学生に利用してもらうための、施設改良・メンテナンスに取り組んだ。安全性を高めるためのネット張り、休憩スペースとしてのあずまや補修などを実施して、実際に愛大附属小学校の生徒に利用してもらった。安全に自然に触れる機会を創出する効果があった。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
複合型農業テーマパークの可能性	伊賀の里モクモク手づくりファーム、東京ストロベリーファーム、なめがたファーマーズヴィレッジ	山藤 篤	様々な形で農業の6次産業化が進められているが、直売所、農家レストラン、観光農園といった単体の取り組みでは、十分な成果をあげることができないため、それを解消する事業形態として、複合型農業テーマパークが登場している。こうした実態を3つのテーマパーク（うち2つは当コース学生の実習先）を対象に整理し、滞在期間の長期化、雇用創出、ブランド化の効果があることなどを紹介した。
新しい農業のかたちー農福連携の実態とその効果ー	障害者施設（ひらい園、ゆいの里、こころみ学園）、地域農業者	香月 敏孝	農業分野における障害者の就労が進んでいる。こうした取り組みのうち、学生が実習に入った3つの障害者施設を対象に活動実態と効果を整理した。障害の程度が低い就労支援型の施設では、自ら農地を耕作するほか、地域農家からの農作業請負や加工品を製造するなど多様な実態があり、障害の重い生活介護型の施設では、農作業が障害者の体力維持や精神安定を目的に実施されている等を指摘した。

地域資源マネジメント学科文化資源マネジメントコース

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
上島町における文化資源としての製塩業の歴史とその保全・活用について	上島町教育委員会、上島町住民	村上 恭通 榎林 啓介 淡野 寧彦	愛媛県上島町においてかつて存在した製塩業（塩田）について、宮ノ浦遺跡での発掘調査への参加や関係機関等での聞き取り調査、関連する文献調査、および岩城島での踏査や聞き取り調査を通じて、文化資源としての保全や継承、活用方法について検討した。岩城島での調査を通じて、塩田と考えられる場所を把握するとともに製塩業に関係すると考えられる新たな遺跡を発見することができた。さらに製塩業末期の塩田業務従事者らへの聞き取りにより、その存在が当時の地域にもたらした影響についても把握できた。これらを通じて岩城島における塩業史の事実の一端が明確となり、資源化に向けた第一歩となることが期待できる。
内子町小田・旧二宮邸を活用した歴史・文化継承の実践	内子町小田自治センター、内子町教育委員会、内子町小田地区住民	井口 梓	愛媛県内子町小田地区には、林業の歴史を伝える旧二宮邸が現存しているが、現在は空き家となっており、活用もなされていない。そこで、林業や森林鉄道、製材業に関する歴史記録を収集・調査し、その成果を踏まえ、旧二宮邸において企画展を開催し、製材所として、また生活の場としての当時は復元展示しながら、小田地区の林業、製材業、森林鉄道の歴史を紹介した。さらに、旧二宮邸を活用した地元小学校での郷土学習も実施した。これら実践により、地域住民が文化資源を再評価するきっかけを生み出し、旧二宮邸の活用の可能性や課題を見出すことで、内発的な文化継承に向けた新しい動きへと結びつけることができた。
大洲市新谷地区の文化とまちづくり	大洲市、大洲市新谷地区住民	寺谷 亮司	愛媛県大洲・内子地域において、3班に分かれ、①豪雨災害後の店舗の復興過程、②災害復興活動とも関わるまちづくり活動、③中心商店街の営業店舗と紹介パンフレットの作成をテーマとする調査実習を実施した。実習最終日には現地報告会を実施するとともに、報告書を作成し、お世話になった現地ステークホルダーに配布した。
八幡浜班活動報告～イカスミソーセージの販売分析を通して～	八幡浜みなと、西南開発	大谷 尚之	八幡浜市が発祥地とされる魚肉ソーセージの開発・販売促進に一昨年度より継続して携わっている。今年度は関係者への聞き取りなどに基づいてイカスミソーセージの販売動向を分析し、売り上げが停滞している要因をマーケティング戦略の観点から検討した。それを踏まえて、ターゲットやマーケティング・ミックスにおける課題を改善するための提案を行い、一部は実際の販売活動に採用された。また、八幡浜市の主力産業である柑橘生産についても聞き取り調査や視察を行い、地域資源の高付加価値化の重要性について理解することができた。

地域資源マネジメント学科スポーツ健康マネジメントコース

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
愛媛マラソンのブランド力向上プロジェクト	愛媛マラソン事務局	山中 亮	地域の誇るスポーツイベントのブランド力向上プロジェクト「スポーツボランティアの充実に向けた取り組みを通して」 【データ分析と改善案の作成】プロジェクト基礎で実施した現状把握をもとに、愛媛マラソンのブランド力向上につながる改善案の作成に取り組んだ。本取り組みにおいて、プロトタイプ案として、ボランティア責任者をサポートする役職設定の提案と実施を進めた。
松山市総合コミュニティセンターにおけるスポーツ教室開講による地域スポーツ活性プロジェクト ー 小学生生徒のニュースポーツふれあいプロジェクト（キッズニュースポーツイベント） ー	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団	浅井 英典	松山市総合コミュニティセンターにおいて、小学校1～6年生を対象にしたスポーツイベントを10月6日及び11月4日に開催した。定員40名に対して60名及び82名の応募があり、抽選により56名及び44名がそれぞれ参加した。児童の成長状況を考慮し、低学年と中・高学年に分け、並行して異なる指導プログラムを適用した。タグラグビー、ドッジビー、キンボール、レクリエーションゲーム等を行った。学生の指導スタッフ7～8名、コミセンスタッフ2～3名で対応した。
松山市総合コミュニティセンターにおけるスポーツ教室開講による地域スポーツ活性プロジェクト ー 未就学児のスポーツ体験プロジェクト（ちびっこスポーツ教室） ー	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団	浅井 英典	松山市総合コミュニティセンターにおいて、未就学児（5～6歳）を対象にしたスポーツ教室を開催した。児童・生徒の体力低下が危惧される現状において、多様なスポーツ活動を経験し、運動への興味・関心を持つことで、今後の運動の習慣化の促進を目的とした。11月下旬から7回開催し、走運動、ボール遊び、リズム遊び、道具遊び等の指導を行った。定員10名に対して14名の子どもが参加した（延べ92名が参加）。毎回の教室は、学生の指導スタッフ5～6名、コミセンスタッフ2～3名で対応した。
地域とスポーツをメディアで繋ぐプロジェクト	愛媛CATV	野口 一人	プロジェクト基礎演習では2年次は先輩方と共に愛媛CATVの番組『笑顔スポーツ広場』の制作に携わった。今回は愛媛大学総合型地域スポーツクラブの「フィットネス教室」、「成人スポーツ教室」、「アクティブウォーキング教室」、「ビギナーマラソン教室」の取材を行った。 プロジェクト応用演習では、このプロジェクトでどのような松山市の課題が解決できるかを考えた。愛媛CATVと協議を重ねた結果、「松山在住の小学生のスポーツ実施率が低下しているのではないか」という一つの仮説を立て、現在の小学生・大学生・社会人に分け100人ずつ計300人を対象にアンケートを実施した。質問項目は今行っている種目・頻度・スマホやTVの利用時間等である。しかし結果は減少しておらず、この仮説は立証されなかった。 プロジェクト実践演習では、愛媛CATVと協議を重ねた上、「スポーツテストの結果向上のために自宅のできる体カトレーニング」という番組を企画・作成した。愛媛CATVと撮影日を調整し、番組に出演してもらったキッズバレエ教室の小学生3人とその保護者に取材許可を得て連絡を取った。また、撮影場所となった愛媛大学附属高等学校を事前に訪ね、グラウンド利用の取材許可の取得を行った。取材の日は、2回生が愛媛CATVの撮影サポートを行い、3回生が番組出演者として小学生3人に「ソフトボール投げ」と「50メートル走」のトレーニング方法を伝授した。そして翌日、愛媛CATVと共に編集作業を行った。
道後湯けむり遍路道ツーデーウォーク参加プロジェクト	NPO法人『えひめ高齢者ヘルスプロモーション』、道後湯けむり遍路道ツーデーウォーク実行委員会	小原 克彦	道後湯けむり遍路道ツーデーウォークと連携し、毎年11月の土・日に行われる『道後湯けむり遍路道ツーデーウォーク』大会にスタッフとして参加する。スポーツイベントの運営に関連する事務局マネジメントやボランティアの実務を体験し、そのノウハウを身につける。高齢者健康体操を始めとするスポーツ教室にもスタッフとして参加し、指導法を習得する。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
テレビ×スポーツ×ドキュメンタリー 大学生は何を求めているのか？	株式会社 愛媛朝日テレビ (eat)	牛山 真貴子	2018年からeatと取り組んできた課題は「若者のテレビ離れ」、キラーコンテンツである「スポーツ」がその打開の一手になる可能性に着目し、スポーツ・ドキュメンタリー番組の認知度及び視聴の関係を調査した(2019.11愛大生200名)。結果として大学生はスポーツ・ドキュメンタリー番組を好意的に捉え、番組に“感動・共感・希望”の経験と“自己の成長”に繋がる知識や方法を要望している他、明らかになった種々の結果を報告した。
松山SGS (スポーツガイドforシニア) 作成プロジェクト	松山市某地区住民	山本 直史	松山市某地区における高齢者が参加可能な運動系の自主サークルの活動内容を参与観察やヒヤリングを通して調査を行い、その内容をまとめたリーフレットを作成した。また、各自主サークルのメンバーと共に、地区住民を対象としたサークル体験イベントを開催した。40名程度の参加が得られ、複数のイベント参加者がイベント後にサークルに入会するなど、一定の効果が観察された。

(2019年度実績)